



TITLE:

精索脂肪腫の1例

AUTHOR(S):

島居, 徹; 菊池, 孝治; 内田, 克紀; 林正, 健二; 矢崎, 恒忠; 小磯, 謙吉

CITATION:

島居, 徹 ...[et al]. 精索脂肪腫の1例. 泌尿器科紀要 1984, 30(11): 1665-1669

ISSUE DATE:

1984-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/118322>

RIGHT:

精 索 脂 肪 腫 の 1 例

筑波大学附属病院泌尿器科

島居 徹・菊池 孝治・内田 克紀

筑波大学臨床医学系泌尿器科（主任：小磯謙吉教授）

林正 健二・矢崎 恒忠・小磯 謙吉

A CASE OF LIPOMA OF THE SPERMATIC CORD

Toru SHIMAZUI, Koji KIKUCHI and Katsunori UCHIDA

From the Department of Urology, Tsukuba University Hospital

Kenji RINSHO, Tsunetada YAZAKI and Kenkichi KOISO

*From the Department of Urology, Institute of Clinical Medicine, University of Tsukuba**(Director: Prof. K. Koiso)*

A case of lipoma of the spermatic cord is presented. The patient is a 68-year-old with the chief complaint of indolent swelling of the left scrotal content which had been noticed about a month ago. A firm elastic and walnut-sized mass with positive transillumination was palpable in the left spermatic cord, but ultrasound sonography demonstrated that it was a solid mass. Though the tumor was punctured with a 18-gauge needle, nothing could be aspirated. The tumor was removed and histologically diagnosed as lipoma originating in the left spermatic cord. Including the present case, 38 Japanese cases of lipoma of the spermatic cord are reviewed.

Key words: Lipoma, Spermatic cord

緒 言

比較的まれな精索脂肪腫の1例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

症 例

患者・S.I. 68歳，男性

初診：1982年12月24日

主訴：陰嚢内無痛性腫瘍

家族歴：特記すべきことなし

既往歴：43歳のとき、肺結核にて左上葉切除を受けた。61歳のとき、慢性腎盂腎炎と診断され、加療を受けた。

現病歴：1982年12月初旬、左陰嚢内の無痛性腫瘍に気付いた。しばらく放置していたが、徐々に増大する傾向がみられたため、同年12月24日、紹介にて当科を受診。精索水腫と診断され1983年1月27日、手術目的

にて入院した。

入院時現症：体格中等度，栄養状態良好，体温36.7℃，血圧150/80 mmHg，脈拍72/分・整，手術による胸郭変形以外に胸腹部に異常を認めなかった。左陰嚢内には、直径約3 cm，表面平滑，弾性硬，可動性良好な無痛性腫瘍を触れ睾丸とはまったく別個の存在で、陰嚢皮膚との癒着もなく、軽度の透光性を認めた。鼠径リンパ節の腫大は認めなかった。

検査成績：血液所見，赤血球 $516 \times 10^4/\text{mm}^3$ ，白血球 $6,100/\text{mm}^3$ ，Hb 15.7 g/dl，Ht 46.1%，血小板 $204 \times 10^3/\text{mm}^3$ 。血液生化学，総蛋白 7.1 g/dl，BUN 10.4 mg/dl，Cre. 1.0 mg/dl，総コレステロール 179 mg/dl，中性脂肪 124 mg/dl，LDH 207 U，GOT 22U，GPT 20 U，電解質正常。尿所見，糖（-），蛋白（-），ケトン体（-），潜血（-），尿培養陰性。心電図正常。肺機能，1秒率67%，%VC 64%，PSP 15/24%。

X線学的検査：胸部XPでは、手術による変化の

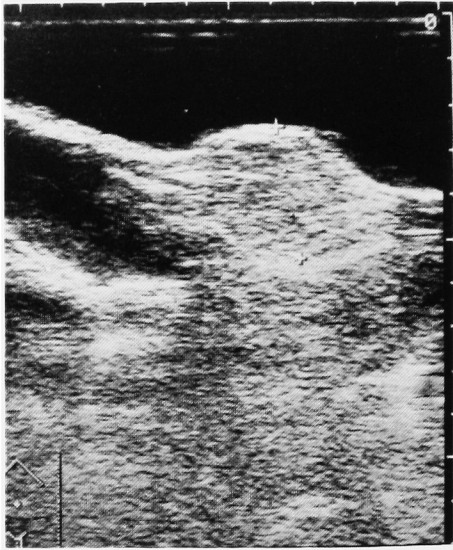


Fig. 1. Ultrasonography of left scrotal swelling revealed a solid tumor on the testis

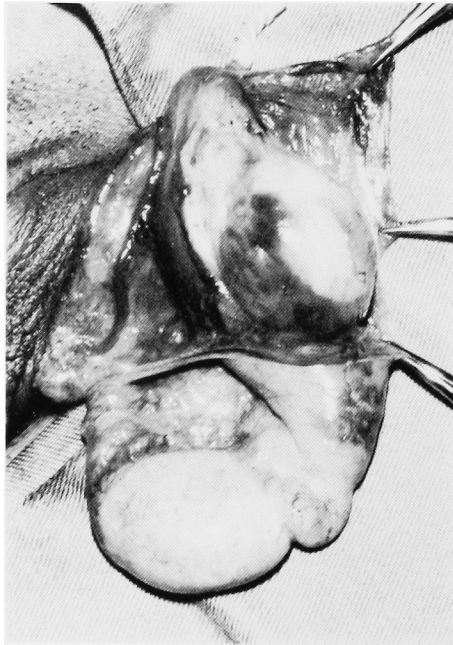


Fig. 2. Exploration disclosed a tumor apparently separated from the testis and the epididymis

みで、KUB, IVP に著変を認めなかった。

超音波検査：左睪丸の上部に、睪丸とは、あきらかに区別される 充実性 パターンを 呈する腫瘍を 認めた (Fig. 1)。

穿刺吸引検査：透光性を有しながら、超音波学的に 充実性であるため、穿刺を施行。しかし18ゲージ針に

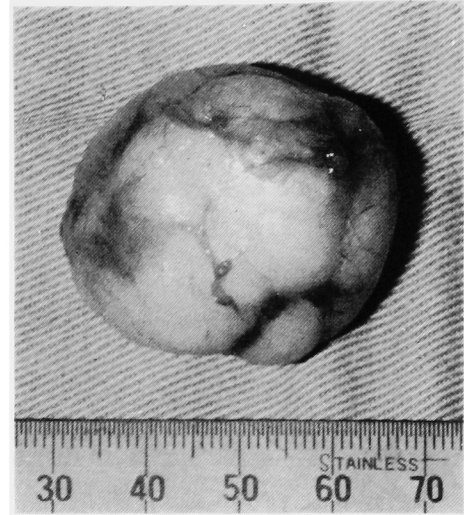


Fig. 3. Gross appearance of the mass which was encapsulated by thin tissue, round in shape, 12 grams in weight (40×34×28 mm)

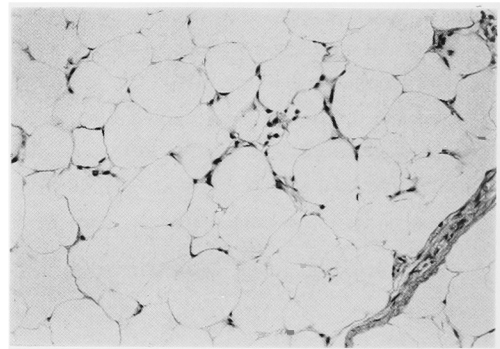


Fig. 4. Histology disclosed well differentiated fat cell. There was no malignancy

でも吸引は不可能であった。

以上の所見より左陰囊内充実性腫瘍と診断し、2月7日腰椎麻酔下に腫瘍摘出術を施行した。

手術所見・腫瘍は精索内で睪丸および副睪丸とともに、絨鞘膜内にあり、薄い被膜に包まれ、周囲組織と隔絶されていた。腫瘍にはあきらかな栄養血管は認められなかった。被膜ごと腫瘍を摘出し、睪丸を陰囊内に固定し手術を終了した。摘出は容易であった (Fig. 2)。

摘出標本：40×34×28 mm。球形黄色弾性硬で薄い被膜に包まれ、重量は 15 g であった。断面は黄色等質、光沢があり、脂肪腫を疑わせた (Fig. 3)。

組織学的所見：術中迅速病理検査の結果は脂肪腫であった。摘出標本切片のヘマトキシリン・エオジン染色ではあかるい胞体を有するよく分化した脂肪細胞よ

Table 1. 精索脂肪腫本邦報告例

No.	報告者	年 度	年 齢	患 側	重 量 (g)	透 光 性	穿 刺	主 訴	術前診断	文 献
1	小沢	12	44	右	810	—		陰嚢内無痛性腫瘍	右陰嚢内嚢腫	日泌尿会誌,1:36
2	本名	19	61	左	420					日外会誌,19:78
3	右田	19	6	右						日泌尿会誌,8:68
4	日比	23	69	左						十全会誌,28:687
5	四条	27	45	右						日外会誌,28:461
6	藤原	29	36	右				睾丸部有痛性腫脹	結核性副睾丸炎	日泌尿会誌,18:589
7	上杉	31	61	右	9750					グレンツゲビート,5:1381
8	見波	33	53	右	760		+	陰嚢内有痛性腫瘍	陰嚢内良性腫瘍	皮泌科紀要,21:142-147
9	市川	35	64	左	330	—		陰嚢内腫大・牽引痛	精索脂肪腫	治療と処方,16:2187
10	原田	37	65	両	2445			陰嚢部腫大	陰嚢内腫瘍	体性,24:515
11	馬島	42	30	右	50	+		精索に沿う腫瘍・疼痛		日泌尿会誌,32:366
12	金子	49	56	左	510	+		睾丸部腫脹・疼痛	陰嚢水瘤	臨床皮泌,3:327
13	広津	51	64	左					巣径ヘルニア	西日泌尿,44:118
14	奥井	52	55	右	720	—		陰嚢部腫脹	睾丸腫瘍	臨床皮泌,6:237
15	市川	57	60	右	160					日泌尿会誌,48:645
16	富川	59	72	左	1100					皮膚と泌尿,21:76
17	斉藤	60	54	右				陰嚢部腫脹		西日泌尿,44:118
18	谷口	60	63	右	280					日泌尿会誌,51:1131
19	清水	63	34	左						日泌尿会誌,54:99
20	和田	64	34	左	450	—		陰嚢内腫大		臨床皮泌,18:817
21	折笠	67	57	左	10			陰嚢内腫瘍	陰嚢内良性腫瘍	臨泌,21:955-957
22	宗	68	36	両	14×2			陰嚢内無痛性腫瘍	辜上体腫瘍か炎症	日泌尿会誌,59:439
23	斉藤	68	64	右	210			陰嚢内無痛性腫瘍		日泌尿会誌,59:742
24	姉崎	72	2	左	9	—	—	陰嚢腫大	左陰嚢内腫瘍	外科診療,14:1489-1492
25	魏	72	55	左	500			陰嚢内無痛性腫瘍		日泌尿会誌,63:687
26	魏	72	51	左	5			陰嚢内無痛性腫瘍		日泌尿会誌,63:687
27	魏	72	48	左	450			陰嚢内腫瘍		日泌尿会誌,63:687
28	高塚	73	53	左	130			巣径部無痛性腫瘍		日泌尿会誌,64:858
29	平野	73	62	左	300			巣径部無痛性腫瘍	脂肪腫悪性化	日泌尿会誌,64:75
30	広野	73	56	右	160	+		陰嚢部無痛性腫脹	陰嚢水瘤	臨泌,27:585-593
31	小路	76	3	右	10	—		陰嚢腫瘍		日泌尿会誌,67:221
32	鳥居	77	68	右	500			陰嚢無痛性腫脹	陰嚢内腫瘍	日泌尿会誌,68:625
33	富田	79	32	左	49	+	—	陰嚢内腫瘍	精索腫瘍	日泌尿会誌,70:247-248
34	富田	79	1	左	7			陰嚢内腫瘍	精索腫瘍	日泌尿会誌,70:247-248
35	柿木	79	40	両	左5.5 右0.5			陰嚢内腫瘍	陰嚢内良性腫瘍	西日泌尿,41:711-714
36	中沢	80	56	左	160	+		陰嚢内腫瘍	精索腫瘍	日泌尿会誌,71:211
37	溝口	82	45	右	205	+		陰嚢内無痛性腫瘍	陰嚢内充実性腫瘍	西日泌尿,44:117-119
38	自駿	83	63	左	15	+	—	陰嚢内無痛性腫瘍	陰嚢内充実性腫瘍	

りなる脂肪腫で悪性所見は認められなかった (Fig. 4).

以上の所見から、精索より発生した脂肪腫と診断された。

考 察

精索腫瘍は、さまざまなものが報告されている。本邦では脂肪腫、血管腫、筋腫、線維腫、神経線維腫などが報告されているが、廣野によれば、良性腫瘍中、もっとも頻度の高いものは、脂肪腫で、約3分の1を

占めている¹⁾。

精索脂肪腫の本邦報告例は、表に示す通りで、自験例を含め38例になると思われる²⁾ (Table 1)。年齢分布は1歳から72歳までと巾広いが、50歳から60歳台が大半を占めている。患側は左19例、右16例、両側3例と左右差は認められない。重量については9,750 gと巨大例も報告されている³⁾が100 gから500 g前後のものが多く、とくに近年では巨大例はなく、早期発見によるものと思われる。初発症状、主訴は1例を除き、陰嚢内腫瘍もしくは陰嚢腫大で痛性のものは5例に

すぎない。

透光性の記載のあるものは13例であるが、7例に透光性を認めている^{1,2,4-8)}。また7例中、3例に穿刺吸引検査が施行されたが、全例吸引不可能であった^{1,2,9)}。透光性を認めたもののうち、術前、嚢腫性腫瘍と診断されたものは2例にすぎないが、これはほかの検査より充実性疾患を疑ったためと推測される¹⁾(Table 2)。

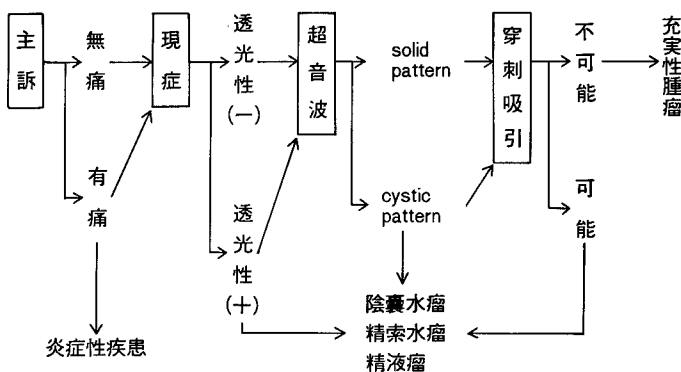
精索腫瘍の診断に際しては、鑑別診断が重要となるが、その1例を示した (Table 3)。われわれは、透

Table 2. 透光性・穿刺吸引と術前診断

術前診断 透光性	術前診断	
	充実性	嚢腫性
あり	5	2
なし	5	1

吸引	術前診断	
	充実性	嚢腫性
不可能	2	1
可能	0	0

Table 3. 鑑別診断のすすめかた



光性を有することを重視したため、超音波検査上、充実性パターンであったにもかかわらず、確認の目的で穿刺吸引検査を施行した。嚢腫性腫瘍を否定するためには、簡便かつ確実な手段であったが、悪性例も少なからず報告されていることを考えれば、慎重さが要求されると思われる。今後、超音波検査上充実性パターンを呈しながら、透光性を有する際は、脂肪腫を念頭におく必要があるだろう。

治療については、記載のあきらかな26例中10例に除手術が施行されており^{1,2,4,9)}、残りの16例が腫瘍のみの摘出である^{1,2,5-8,10-14)}。精索脂肪腫は総鞘膜に被われていることが多く、良性疾患であるので、腫瘍のみの摘出にとどめることが望ましい。ただし、術中の迅速病理検査にて悪性が疑われたなら、迷わず高位除手術を施行するべきと思われる。

結 語

62歳男性に発生した比較的診断困難な精索脂肪腫の1例を経験したので、若干の考察を加えて報告した。

本論文の要旨は1983年3月、第417回日本泌尿器科学会東京地方会において発表した。

文 献

- 1) 廣野晴彦・川井 博・淡輪邦夫：精索脂肪腫。臨 泌 27：585～593, 1973
- 2) 溝口裕昭・酒本貞昭・緒方二郎：精索脂肪腫の1例。西日泌尿 44：117～119, 1982
- 3) 上杉直吉：巨大なる精索脂肪腫の1例に就いて。グレンツゲビート 5：1381～1383, 1931
- 4) 小沢慶三郎：精系脂肪腫の示説。日泌尿会誌 1：36, 1912
- 5) 姉崎静記・ほか：2歳の男子にみられた陰嚢脂肪腫の1例。外科診療 14：1489～1492, 1972
- 6) 小路 良・南 孝明・佐々木忠正・菅谷公平・中村憲司：小児に発生した陰嚢内脂肪腫の1例。日泌尿会誌 67：221, 1976
- 7) 富田康敬・竹崎 徹・芦田欣也・米山威久：精索部腫瘍の2例。日泌尿会誌 70：247～248, 1979
- 8) 中沢 博・樹知果夫・福重 満：陰嚢内脂肪腫の1例。日泌尿会誌 71：211, 1980
- 9) 見波秀雄・ほか：陰嚢内に発生せる巨大なる脂肪腫。皮泌科紀要 21：142～147, 1933
- 10) 宗菊次郎・加藤文彦：両側精索脂肪腫の1例。日

泌尿会誌 59 : 439, 1968

11) 魏 武彦・北村 温・林 易：精索脂肪腫症
例. 日泌尿会誌 63 : 687, 1972

12) 高塚慶次・宮本慎一・生垣舜二：精索腫瘍. 日泌
尿会誌 64 : 858, 1973

13) 島居恒明・平田輝夫：精索脂肪腫の 1 例. 日泌尿
会誌 68 : 625, 1977

14) 姉木敏明・長沼弘三郎：陰嚢内良性腫瘍の 2 例.
西日泌尿 41 : 711~714, 1979

(1984年 4 月 24 日受付)